

平成26年度 事業報告

平成26年度の我が国の経済は、25年度に引き続き安倍政権の下日本経済の再生に向けての「大胆な金融政策、機動的な財政政策及び民間投資を喚起する成長戦略で、雇用や所得の拡大を目指す」政策を実施してまいりました。

地方にはまだまだといった感じの中、平成26年度下呂温泉宿泊客は984,501人、前年度対比96.7%となり震災以外では昭和46年以来の100万人を下回る結果となりました。

その要因は消費税増税、バスの規制、ガソリンの高騰、高速料金割引廃止、御嶽山の噴火など色々な条件が重なり、特に台風・豪雪など気候の変化が週末に集中したことが最大の要因となっています。

下呂温泉観光協会では、宿泊客の増加を目指し即効的な誘客対策と、将来に向けての人材育成や魅力ある観光地づくりを進めると共に、地域での観光コーディネーターの役割が重要であることを鑑み、金山の筋骨巡り、小坂の滝巡りなど魅力を生かした提案、様々な手段やパブリシティでの情報発信など誘致宣伝事業を連携し進め、「MICE」によるコンベンションを様々なチャンネルで誘致するように努めて参りました。

また誘致宣伝委員会では、県及び観光連盟が主管する東海地方を重点的に行ったキャンペーンに、観光協会を始め下呂市観光協会連絡協議会、下呂温泉旅館協同組合、下呂市が一体となり、すべてに参画したことや、中部地方を始め、西日本方面の広島、岡山、大阪、関東方面の東京、栃木、埼玉、静岡などにも出向きキャラバンを行ない誘客に努めて参りました。

おもてなし委員会では恒例の「いでゆ夜市」、「花火ミュージカル冬公演」、「下呂温泉花火物語」など市や関係団体との連携を進めると共に、また、最近特に増えてきた若者の街歩きなどのニーズへの対応をして参りました。

まちづくり委員会では下呂市に何が必要であるか、太田広先生を招き1年間自治会、地元関係団体、旅行関係団体で組織を立ち上げ街づくり研修を進め市に提案書を提出しています。又植樹・清掃活動などの環境整備事業や、近隣観光地との連携を深め連泊できる魅力ある観光地づくりを目指し、事業を展開して参りました。

交流研修委員会では、研修事業としての「観光セミナー」を実施。関ヶ原、滋賀県を視察研修しました。

インバウンド対策では、招致事業や観光展への参加など積極的に進め、誘客を計って参りました。

その他、飛騨の連携、岐阜、郡上の連携、中津川との連携など広域的な連携を深め、今後の観光の在り方など、共通の課題として捉え取り組んで参りました。

以上の様な取り組みをし誘客に努め、数か実か色々見定めながらの展開であったかと思えます。

しかしながら宿泊客100万人維持は下呂温泉の最低限の目標数値であり、何とか27年度には復帰できるよう頑張る所存でございますので、皆様方の尚一層のご協力をお願い申し上げます。